

ブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹で良品質果粒を安定生産するための1果房当たりの最適葉数						
<p>[要約] 露地栽培のブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹の満開期の1果(花)房当たり葉数は16枚程度が、1粒重が重く、果皮色及び糖度が優れるなど果粒形質が良く、萌芽率、着花率、有核果粒率など樹体生育も良く、最適である。また16枚区の収穫時の葉面積指数(LAI)は約2である。</p>						
長崎県果樹試験場・落葉果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	普及
資料名：平成10年度 長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

ブドウ「巨峰」は果粒肥大、果皮色、萌芽率、着花率などに対して1果(花)房当たりの葉数の影響が大きいと云われている。しかし、生産現場のブドウのウイルス無毒樹は保毒樹に比べ樹勢が旺盛であることから、樹当たりの房数を保毒樹より多く付け1果房当たりの葉数を少なくしている園が多い。その結果、着果過多となり小果粒化、萌芽率や着花率の低下を招いている。そこで、ウイルス無毒樹で良品質果粒を連年安定生産するための1果房当たりの最適葉数を検討する。

[成果の内容・特徴]

- ① 1果(花)房当たりの葉数が増加するに従って、処理当年の1粒重は重く、果皮色は向上し、糖度は高くなる。しかし、満開期の1果(花)房当たりの葉数が20葉になると1粒重は16枚区に比べ軽く、果皮色は悪く、糖度は低くなる。果粒品質のためには、満開期の1果(花)房当たりの葉数は16枚程度が最良である(表1)。
- ② 翌年の生育状況は16枚区が萌芽率、着花率、有核果粒率が高い。16枚区の収穫時の葉面積指数(LAI)は約2である(表2)。
- ③ 翌年の果粒形質は16枚区が1粒重、果皮色、糖度共に優れている(表3)。
- ④ 以上の結果、ブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹による良品質果粒を連年安定生産するための1果(花)房当たりの葉数は16枚程度である。

[成果の活用面・留意点]

- ① 強樹勢のブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹で活用できる。

[具体的データ]

表1 処理当年の1果(花)房当りの葉数と果粒形質との関係²(1997年)

満開期の1果(花)房当り葉数(枚)	1房重(g)	1粒重(g)	果皮色 ³	糖度	酸含量(g/100mℓ)
5 [*]	186.3	9.7	4.1	16.1	0.25
8	215.9	11.3	8.8	18.4	0.28
12	215.0	11.5	9.5	19.8	0.26
16	225.2	12.1	9.5	19.8	0.29
20	220.7	11.0	9.0	19.1	0.30

² 調査は各区の収穫盛期

³ 果皮色は黒色ブドウのカラーチャートによる

^{*} 無摘房(放任)樹

表2 1果房当たり各葉数樹の処理翌年度の生育状況(1998年)

1果房当たり葉数(枚)	1果房当たり萌芽率 ² (%)	結果枝の ³ 平均長(cm)	1結果枝 ³ 当たりの平均葉数(枚)	1結果枝 ³ 当たりの平均花数(房)	着花 ³ 枝率(%)	1果房 ⁴ 当たり有核果粒数(個)	有核 ⁴ 果粒率(%)	収穫期の葉面積積指数(LAI)
5 [*]	76.3	24.7	5.8	1.26	77.6	9.8	8.2	1.46
8	82.7	32.2	7.4	1.53	85.2	13.3	11.1	1.52
12	82.6	37.4	7.8	1.63	88.1	25.3	21.1	1.92
16	88.3	40.2	8.0	1.69	90.8	26.9	22.4	2.06
20	87.0	39.1	7.8	1.64	88.8	26.8	22.3	2.64

² 展葉期(4月10日)に調査 ³ 満開期(5月12日)に調査

⁴ 実止まり決定期(5月24日)に調査 ^{*} 無摘房(放任)樹

表3 1果房当たり各葉数樹の処理翌年度の果粒形質²(1998)

1果房当たり葉数(枚)	粒数(個)	1粒重(g)	果皮色 ³	糖度	酸含量(g/100mℓ)
5 [*]	18.7	9.7	9.0	19.4	0.37
8	22.1	10.1	9.3	19.4	0.35
12	22.9	12.3	9.1	19.0	0.35
16	22.9	12.6	9.8	19.8	0.37
20	22.3	12.3	9.3	19.8	0.36

² 調査は各区の収穫盛期

³ 果皮色は黒色ブドウのカラーチャートによる

^{*} 無摘房(放任)樹

[その他]

研究課題名:ブドウウイルス無毒樹の栽培技術の確立

予算区分:県単

研究期間:平成10年度(平成7年~11年)

研究担当者:森田 昭・林田誠剛

既発表論文等:なし